



A&J NEWS LETTER

MAIN CAMPUS



フィリピン・ルソン島のハロウィンの過ごし方

フィリピンでは、ハロウィンの過ごし方が欧米とは少し違います。仮装やパーティーを楽しむ人もいますが、特にルソン島では「亡くなった家族や親族を偲ぶこと」が中心となります。

11月1日と2日の「UNDAS (オンダス)」と呼ばれる時期には、多くの家族が故郷へ帰省し、墓地を訪れます。墓を掃除したり、花を供えたり、ろうそくを灯して祈りを捧げるのが一般的です。日が暮れると、墓地のあちこちでキャンドルの光が揺れ、幻想的な雰囲気になります。

フィリピンではこの日、家族や親戚が墓地に集まり、食事を持ち寄って一緒に過ごします。笑い声や音楽が響く明るい雰囲気、で、「お盆」と「お祭り」が合わさったような文化です。



一方で、都市部の若者たちは仮装パーティーやショッピングモールでのハロウィンイベントを楽しむことも多くなりました。ルソン島のバギオやマニラでは、10月末になるとお店やカフェがハロウィン仕様に飾りつけられ、フォトスポットとして人気を集めています。このようにフィリピンのハロウィンは、「怖さ」や「お菓子」だけではなく、家族愛や郷土のつながりを感じる心温まる季節です。





そもそもハロウィンの起源とは？

ハロウィン (HALLOWEEN) は、もともと古代ケルト人 (現在のアイルランド・スコットランド周辺) の祭り「サウィン (SAMHAIN)」が起源です。

この祭りは、秋の収穫を祝う日であるとともに、“死者の霊がこの世に戻ってくる日”と考えられていました。現代でいうと、日本のお盆に近い考え方です。

ケルトの暦では10月31日が「一年の終わり」で、11月1日が新年の始まりでした。その境目の夜に、死者の霊や悪霊が現れると信じられていたため、人々は仮面をかぶったり火を焚いたりして霊を追い払うようになりました。これが、現在の「仮装して歩くハロウィン」のルーツです。



去年のA&Jハロウィンパーティーの様子

